

物語文を読んでえらぼう

小6／物語を読んで、人物の心情や理由を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 けんかのあとを よんで、そのときの優の心情を1つえらびましょう。

つまらないことで親友と言い争い、口をきかなくなつて三日。ろうかですれちがうたび、優は目をそらしていた。けれど相手が落としたプリントを、気づけば自分がひろっていた。差し出す手が、少しふるえた。

- 1 まだ相手を許せず、にらんでいる。
- 2 仲直りしたい思いと気まづさが入りまじっている。
- 3 相手にまったく関心がない。
- 4 けんかのことを完全に忘れている。

2 海辺の約束を よんで、小指を差し出した莉子の思いを1つえらびましょう。

引っこす前の日、幼なじみの二人はいつもの海辺に立った。かける言葉が見つからず、ただ波の音を聞いていた。やがて陽菜が「手紙、絶対書くから」と言うと、莉子はだまって小指を差し出した。

- 1 約束を交わし、つながりを保ちたいという思い。
- 2 早く別れて帰りたいという思い。
- 3 陽菜の言葉を信じていないという思い。
- 4 手紙をもらいたくないという思い。

3 負けを認めるを よんで、この場面での慎の変化を1つえらびましょう。

将棋でどうしても兄に勝てない慎は、いつも途中で盤をにらんでだまりこんだ。だがその日はちがった。負けをさると、慎は顔を上げ「今の、どこがよくなかった?」と兄にたずねた。兄は少しおどろいたように笑った。

- 1 負けをうけ入れ、次に生かそうとするようになった。
- 2 将棋をやめようと決めた。
- 3 兄を怒らせようとした。
- 4 兄に勝ったことを自まんした。